学校評価委員会開催議事録

日時 2025年5月13日(火) 10:30～11:30

新横浜歯科衛生士・歯科技工士専門学校 2階 会議室

参加者

学校評価委員 片山繁樹 歯科技工士科学科長 勝田崇仁

歯科衛生士科教務主任 大西みのり 事務長 長井勇大

書面 井澤尚子様 牛芬様（事前に自己評価をお送りし書面にてご意見を頂いた。）

議事録作成者 長井勇大

学校運営について 長井

収支については、予算にもとづき概ね予定通り遂行することが出来た。

2025年1月9日16時半頃女子更衣室内にて盗難事件発生（警察に届出済）

国家試験：両科全員受験全員合格

入学者：歯科衛生士科、定員充足 歯科技工士科、30名（昨年増）

令和6年度 重点目標反省

歯科衛生士科 大西

〈国家試験合格100パーセントの維持〉

全員合格を継続することが出来た。

しかし、国家試験対策の際、勉強に対し消極的になり欠席が増える学生が多くいた。

〈入学者の定員充足と退学者・休学者ゼロの実現〉

定員を充足させることが出来た。

退学者：1学年2名、2学年2名、3学年0名

校則違反による補習中に退学した学生、臨床実習D判定の補習が合格せず留年になった学生がいた。日頃から見える学生の様子から、早目の聞き取りをする。

欠席が見られるようになる前に早目の声掛けを心がけ、欠席が増えた学生に対しては、保護者と連携を取る。

〈多職種連携を意識したカリキュラムの構築〉

従来 of 合同実習に加え、横浜グリッツの選手に対し歯科衛生過程を行った。

特別養護老人ホームケアセンターメゾンヴェルトでの臨地実習では、食事介助や摂食嚥下体操などが行われた。

今年度より行われた神奈川歯科大学付属病院実習では、様々な職種の方々と共に実習を行った。

幼稚園実習から保育園実習に変更があった事で、さらに多職種理解が高まった。

〈教職員のレベルアップ及び学生の知識・技術の平均化〉

神奈川歯科大学付属病院と特別養護老人ホームケアセンターメゾンヴェルト実習では、教員が全員参加し、次年度の実習内容に向けての幅が広がった。

教員同士が常に相談し連携が取れていたため、学生指導・評価が公平に行えた。

〈規律正しい生活、学校生活への意欲的な参加を促せるような教育〉

出欠席や規則等、教員が同じ目線で指導が出来た。

季節に合わせたイベントを定期的に行った。

〈社会に適応できる人材育成〉

全体目標や個々の目標に進むことができるよう、授業での話し方、行動に注意を払い、上記、生活面も含め指導に努めた。

歯科技工士科 勝田

〈国家試験合格100パーセントの維持〉

全員受験全員合格することが出来た。

〈入学者の定員充足と退学者・休学者ゼロの実現〉

退学者：1学年3名、2学年1名 両学年休学者無し

〈多職種連携を意識したカリキュラムの構築〉

卒業研究、幼稚園実習を通し、それぞれチームワークを意識し、連携や役割を理解した。

合同実習は専門職の役割を活かし、作業別で説明、実習操作が互いに学べる授業を行えた。

臨床現場での見学授業を行い、歯科治療に関わることで、専門性の高い職業と連携の重要性を学んだ。

技工作業では、基本操作の反復練習年間を通し行い基礎技術の向上につながるきっかけとなった。

積極的な行動力の促し、指導側のスケジュール管理をする必要があった。

個々の役割では行動、能力差がおこってしまう状況もあり改善の必要もあるが、サポート、目配りをする学生もいて、協力や指導がスムーズに行える場面もあった。

〈教職員のレベルアップ及び学生の知識・技術の平均化〉

基礎的な知識の教え込みが整った上で、個々の状況に合わせて指導、サポートを行う。

学生状況の把握がそれぞれ足りない、指導対象となる学生のサポートと教員間での共有が必要。

〈規律正しい生活、学校生活への意欲的な参加を促せるような教育〉

スケジュール調整を行うことで、学生の提出期限の設定や課題の周知を行い、自ら行動できるよう指導をした。

校内生活での細かい行動での注意、伝達を行い、改善等行えるよう指導をした。

〈社会に適応できる人材育成〉

学校生活のルールそのものが社会のルールに沿っているため、日々自然と育成出来ている。

井澤様

(書面より抜粋)

法人運営について

特になし

歯科衛生士科・歯科技工士科について

- ・授業準備の連絡は早めに欲しい。
- ・ロッカーで靴の盗難があったので、シューズロッカーにも鍵があれば安心だと思う。
- ・全保護者へアンケートを無記名で行えば、色々と知ることが出来ると思う。
- ・クラス内の様子を見て、1年に1度は席替えをしてほしかった。
- ・歯科衛生士科と歯科技工士科の学生に対する対応が違い過ぎるので疑問を感じる。
(行事の準備、片付けの対応など)
- ・更衣室のロッカーを同学年ごとにまとめないほうがよいのではと感じます。その方が実習着への着替え等の時間が重ならず使いやすいと思う。

牛様

(書面より抜粋)

法人運営について

特になし

歯科衛生士科・歯科技工士科について

- ・毎年勤務先で臨床実習生を受入れて感じることは、挨拶がきちんと出来ること。
自分から積極的にコミュニケーションがとれる学生は、スキルの上達も早いと感じます。
- ・学校が取り入れている医院見学(歯科技工士科)は、就職後だと医院の中に入る機会も減るので歯科技工士さんにとって、とても良いことだと思います。

令和7年度学校の重点目標は以下の通り

- 1、 国家試験合格率 100パーセントの維持
- 2、 入学者の定員充足と退学者・休学者ゼロの実現
- 3、 多職種連携を意識したカリキュラムの構築
- 4、 教職員のレベルアップ及び学生の知識・技術の平均化
- 5、 規律正しい生活、学校生活への意欲的な参加を促せるような教育
- 6、 社会に適応できる人材育成

片山先生

教育理念・教育目標のもと、きめ細やかに対応されていると思う。学校内の授業だけではなく課外活動も多く取り入れることによって業界への興味も増し、活気が出るのではないかと思う。

留学生の受入れも増えている中、歯科技工士として医療ビザが取得できない問題も世の中に働きかけていきたい。

以上